

プリオン病ガイドライン2008の浸透状況パイロット調査

研究分担者： 日本医科大学脳神経外科 太組一朗

プリオン病感染予防ガイドライン2008年版の浸透を調査した。
神奈川県内脳神経外科施設を対象として、医師に対する記名式アンケート形式
により関連事項についてパイロット調査した。

11施設（脳神経外科専門医14人）から何らかの回答を得た。

Q 「プリオン病・CJD患者のバイオプシーを依頼されたことがありますか？」
A 14人中3人が「あり」と回答したが、この3名は全員「CJD疑い患者の手術を
依頼されたら」神経内科に相談すると回答した

Q 「CJD疑い患者の手術を依頼されたら」
A 神経内科に相談する 10/14
神経内科に相談しない 4/10 → 4名全員手術を引きうけないと回答した

Q 脳神経外科手術器械は『プリオン病感染予防ガイドライン』に従っていますか
（回答10施設）
A 例外なく施行している 1施設
概ね施行している 2施設
まだ遵守できていない 3施設
後で確認します 4施設

解 説

1. 調査対象となった脳神経外科医は全員、CJD患者に対する手術に関して「神経内科に相談する」または「手術を引き受けない」との見識を有していた。
2. 施設単位でのGL2008の実施率は必ずしも高くないという実態が浮き彫りになった。
3. 今後ともGL2008に関する啓発活動が重要であることが示された。